

評価項目	自己評点	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目標</p> <p>○学校の理念・目的・育成人材像</p> <p>○職業教育の特色</p> <p>○地域社会等のニーズを踏まえた学校の将来構想</p> <p>○学校の理念・目的・育成人材像などの学生・保護者等への周知</p> <p>○学科毎の教育目標・育成人材像と、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・博多学園建学の理念である「全人教育」「自立・共存」「地域社会への奉仕」を堅持し、校訓「徳性の涵養」「気力の充実」「技術の錬磨」にあるように、「徳性を涵養し、専門知識及び専門技術の向上を図り、社会性・創造性豊かな人材を育成する」という教育方針に基づき教育を行っている。教職員には教職員便覧、教職員研修会等で周知徹底している。</p> <p>平成28年11月に新たに学園指針として「心が志を、志が人成を」を定め、「心を育み、志を立て、夢を実現し、豊かな人生を築き、人間として成長する」という人生に深く関わる教育の実践を掲げ、その行動指針として「私たちは笑顔と向上心で挑戦します」「私たちは愛情と情熱を持って学生の未来を拓きます」「私たちは互いを信頼・尊重し行動します」という博多学園全体としての「私たちの誓い」を平成30年度に作成した。また、学校長の具体的目標としてエンローメント・マネージメント(入学前から卒業後まで一貫した経営・教育マネージメント)による3科定員確保、3科国家試験合格100%、3科希望進路100%達成を掲げ、教職員一同努力を重ねている。</p> <p>・職業実践専門課程として、より実践的な職業教育を行っている。講義と実習が融合するカリキュラム、業界最先端の技術を学ぶ企業連携授業、豊富な臨地・臨床実習、チーム医療に欠かせないコミュニケーション能力養成講座等、心豊かな人間性と高い専門性を身につけた医療専門職の養成に努めている。</p> <p>・各業界から寄せられるニーズに対地的確に対応し、求められる職業人を育成するよう、教員のスキルアップ、カリキュラムの継続的な見直しを行っている。「喫煙」については、30年度より敷地内完全禁煙を実施、薬剤師による禁煙教育や危険ドラッグについての講演も継続している。</p> <p>・学生には入学前の体験入学時に説明し、入学後は学生便覧や入学後の各科オリエンテーション、宿泊研修会等で周知、保護者には、入学式後のオリエンテーションで説明している。ただし、令和2年度においてはコロナ禍の影響により宿泊研修の実施ができず、入学式も保護者来場不可としたため、以前に比べると周知方法が限定的となった。</p> <p>・いろいろな機会を捉えて業界ニーズの把握に努めており、毎年の教員研修・カリキュラム編成に生かし、各科の教育課程編成委員会で審議している。DTでは、令和元年度からの単位制移行に伴いカリキュラムを大幅に改定し、よりわかりやすく実践的なカリキュラムとした。DHでは「専門的口腔ケア実習」に注力し、多職種連携によるチーム医療に対応できる歯科衛生士養成を目指している。CEも企業連携授業や本校OBの講演等で、最先端の技術と業界の今を学び、業界動向・ニーズに合わせたカリキュラムの改変を行っている。</p>	<p>・適切な対応が図られていると認められる。</p>
<p>(2) 学校運営</p> <p>○目的等に沿った運営方針の策定</p> <p>○運営方針に沿った事業計画の策定</p> <p>○学校の運営組織や意思決定機能について、規則等における明確化とその有効化</p> <p>○学校運営上の各種規程の整備状況</p> <p>○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況</p> <p>○業界・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備</p> <p>○教育活動等に関する情報公開</p> <p>○情報システム化等による業務の効率化</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・理事長経営方針に則り、学校長が専門学校経営方針を策定する。</p> <p>令和2年度は、経営方針を『創立50周年に向けて～「人材育成」「教育の質の向上」「学習環境」の3本柱を重点項目とし、地域とステークホルダーに愛され信頼される学校づくりを目指す～として、建学の理念・校訓をバックボーンに置き、「学生募集」「専門教育」「キャリア支援」等教職員が一丸となって情報を共有しながら計画的・組織的に運営している。課題は、そのPDCAサイクルを周期的に回すことにある。</p> <p>・経営方針に則り、教務主任を中心に事業計画を策定している。</p> <p>具体的内容は、各科の自己評価で説明。</p> <p>・「学校運営規則」により明確にし、教職員便覧に掲載し徹底を図っている。</p> <p>・学校法人博多学園諸規程、学校運営規則等により整備されている。</p> <p>・学校法人博多学園諸規程、学校運営規則等により整備されている。</p> <p>・平成25年度の本委員会指摘によりコンプライアンス体制の整備を行うと共に、情報セキュリティ体制も強化しており、十分な整備が図られている。</p> <p>・平成24年度より学校概要・学校評価・財務など必要な情報は公開済。日々の行事や受験情報などは、ホームページ、SNS (Instagram、Twitter、LINE、Facebook) で発信している。</p> <p>・令和2年度からは、各科担当を決めて2週間に1度はSNSの更新を実施している。</p> <p>・日常の運営に関するものはほぼシステム化されており、効率的に運用されている。</p> <p>・教職員全員を対象にiPad貸与・LINE Works活用等により、即時に情報を共有する取り組みを実践し効率化を図っている。</p>	<p>(2)学校運営について、自己評点の変更なし</p> <p>・適切な対応が図られていると認められる。</p>

令和2年度 学校自己評価 および学校関係者評価結果 4段階評価(A:十分できている B:ほぼできている C:あまりできていない D:全くできていない) ※令和2年度:コロナ禍を事由とする未実施等については「B」評価にて配点

CE=臨床工学技士科、DT=歯科技工士科、DH=歯科衛生士科

評価項目	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
(3) 教育活動 (目標設定等) ○教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等の策定 ○教育理念・育成人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正化	A A	・学校長と連携しながら教務主任を中心に目標設定を行いカリキュラムを作成し、教育課程編成委員会で審議後カリキュラムが完成。その後シラバスを整備する。 ・令和2年度は、平成26年度から掲げている各科のカリキュラムポリシーを6年ぶりに見直し、現行のカリキュラムに対応した内容にリニューアルすることができた。 ・厚生労働省が定める各科の養成所指定規則を踏まえ、過重な教育時間にならないよう留意しながら、各学年の到達レベルも考慮してカリキュラムを作成している。DTでは、単位制移行に合わせ、抜本的なカリキュラム変更を行い、より分かり易く実践的なカリキュラムとなった。	・適切な対応が図られていると認められる。
(教育方法・評価等) ○学科等のカリキュラムの体系的な編成 ○キャリア教育・実践的な職業教育等の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発 ○科毎の関連業界・企業等との連携によるカリキュラム等の作成・見直し ○科毎の関連業界・企業等との実践的な職業教育の体系的な位置付け ○授業評価の実施・評価体制 ○職業教育に対する外部関係者からの評価体制 ○成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化	A A A A B B A	・文部科学省・厚生労働省令である各科養成所指定規則、および本校カリキュラムポリシーに基づき各学科の中で議論したカリキュラム案を、教育課程編成委員会で議論し、修正・改善したものを職員会議で決定し、シラバスにまとめている。DTでは、単位制移行に伴い全面的にカリキュラムとシラバスを見直し、体系的で革新的なカリキュラムが構築できた。 ・卒業後すぐに実践出来るようになるための多様な実習を取り入れたカリキュラムとなっており、各科毎年見直しし、改善している。医療人としてのコミュニケーション、実習前のOSCE、実習後の発表会等、毎年内容も見直ししている。DTでは九大病院見学、企業でのインターンシップなど多様なキャリア教育を実践している。 ・令和2年度はコロナ禍において、4月:休校、5月:リモート授業、6月:分散登校と、これまでにない教育環境整備が求められたが、限られた時間において的確かつ柔軟に対応し、学習コンテンツを提供することができた。導入に至るまでは非常に困難であったが、コンテンツの蓄積やリモート学習の実践をもとに、今後に繋がる教育展開に向けての素地をつくることができた。 ・各科の教育課程編成委員会に、各業界団体および有力企業・病院等から参加いただき、実践的な職業教育のためのカリキュラムを検討している。 ・平成27年2月17日付で文部科学大臣より各科共「職業実践専門課程」の認定を受けた。CE・DHは病院等での実習がカリキュラムに組み込まれており、実習担当者からの評価も受け進級・卒業判定にも影響がある。DTでは、平成26年度より企業3社と連携授業を行い、最先端の機械・器具を用いた授業を行っている。CEでも平成27年度から企業と連携した先端医療機器の授業を行っている。 ・平成28年度から、専任教員の授業の学生アンケートを導入した。教員の自己評価と学生の評価を点数化し、グラフで視覚化することにより、評価をわかりやすくした。平成29年度からは非常勤講師の希望者に学生アンケートを実施し、30年度からは非常勤を含め全教員に実施した。また、30年度から専任教員は全員公開授業を実施し、より質の高い授業を目指している。 ・学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の検討時に外部委員からの評価は行われているが、いわゆる第三者評価は実施していない。教育の質保証の観点から、第三者評価の必要性は認識しているが、すぐに導入することは事務体面、費用面から難しい。 ・担任・副担任が資料作成 → 教務会議 → 判定会議の手順で行う。基準については学則で明確にしている。	・適切な対応が図られていると認められる。
(資格試験) ○資格・検定取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付け	A A	・各科共、国家資格取得が最大の目的であるため、すべてはそのためのカリキュラムが組み込まれており、各種検定試験(CE～ME2種・1種、ビジネス検定、情報処理検定、DT～ビジネス検定、DH～秘書検定、日本口腔ケア学会認定資格5級)もその一部に組み込まれている。	・適切な対応が図られていると認められる。
(教職員) ○人材育成目標の達成に向けた授業が行える教員の確保 ○関連業界との連携による優秀な教員の確保体制 ○関連業界の先端知識・技能の修得、教員としての指導力・資質向上のため研修等 ○教職員の能力開発のための研修等	B B A A	・現在の専任教員は、経験も十分に資質・技量とも全く問題ないが、退職者が出た場合は、各業界団体やOBと連携を図りながら優秀な教員の確保に努めている。 ・非常勤講師については、福岡県歯科医師会や九州大学からは講師派遣について直接支援をいただき、また各科の業界団体からも協力いただき、一流の講師陣を確保している。 ・参加を予定していた各業界団体主催の教員研修会、福専各主催の研修会等はコロナ禍のため中止となるなど影響が大きかったが、Webによるリモート講義や研修会への参加により、専門性と教育技術を高めるための手段を、より効率的に得られるようになった。 ・学内では、夏期、冬期、年度末に研修会を設け、外部講師の講演や教育に関する討論等を行っている。令和2年度は、企業による「国家試験対策学習ソフト」新システム研修を全員の教職員で取り組んだほか、各科でもそれぞれの課題を検討し、カリキュラムポリシー見直しの実践ができた。今後の課題としては、主体的な個別の研修も必要である。	・コロナ禍において研修の機会が減少したことは事実であるが、修得・向上のための研鑽は続けていることから、評定の変更は不要ではないか。 一ご指摘の点を踏まえ、評定をAに据え置く。

令和2年度 学校自己評価 および学校関係者評価結果 4段階評価(A:十分できている B:ほぼできている C:あまりできていない D:全くできていない) ※令和2年度:コロナ禍を事由とする未実施等については「B」評価にて配点
 CE=臨床工学技士科、DT=歯科理工士科、DH=歯科衛生士科

評価項目	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
(4) 学修成果 ○就職率の向上体制	B	・各科共、国家資格が取得できないとその職業につけない職種のため、1年次より、高い職業観の醸成と国家試験対策に取組み、国家試験100%合格=100%就職を目指している。 国家試験合格率 [CE] 90.0%(89.5%)、[DT] 100%(96.9%)、[DH] 87.0%(96.3%) ()は前年度実績 就職率 [CE] 81.8%(89.5%)、[DT] 100%(100%)、[DH] 96.3%(96.2%) ・1年次より各科共各種資格取得に取組み、さらに国家資格取得へと繋げている。	・「退学率の軽減対策」については、数値化により評価できる内容であるため数値目標に基づき評価するべきではないか。 →現在は「2.5%以内」を指標として掲げており、当年度は2.1%であることから評定をAに変更する。 ・評価については、退学者の退学事由にも着目するべきではないか。 →ご指摘の点を踏まえ、今後の学生指導対策に役立てるようにする。
○資格取得率の向上体制	B		
○退学率の低減対策	A	・学生との個人面談を実施し、学習面・生活面の指導・支援により、脱落者が出ないよう教員全体で取り組み、令和2年度は退学者が7名([CE]4名、[DT]0名、[DH]3名)となった。(元年度は12名)	
○卒業生・在校生の社会的な活躍等の把握	B	・令和4年度の50周年に向け、同窓会組織の強化も兼ねて、ホームカミングデイを実施している。また、教員による卒業生の就職先訪問も実施している。活躍する卒業生に講演を依頼することで、在校生のモチベーションアップにも繋げている。	
○卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用	B	・平成27年度より同窓会主催の卒後研修会を実施している。	
(5) 学生支援 ○進路・就職に関する支援体制	B	・各科毎に外部講師による就職セミナーを実施。就職担当教員と事務室で、求人票の管理、学生相談、面接指導等を実施。企業見学や校内での企業説明会も随時実施。 就職を計画的・組織的に進め、早い段階で内定を取り、国試対策に集中する。	・適切な対応が図られていると認められる。
○学生相談に関する体制	A	・前期・後期で担任が個人面接を実施。必要に応じて、顧問のカウンセラーを招いての相談も実施。それ以外にも、随時相談に応じる体制を取っている。	
○学生に対する経済的な支援体制	A	・令和2年度より開始された「高等教育の修学支援新制度」の認定を受け、前期・後期合わせて74名([CE]22名、[DT]14名、[DH]38名)が対象となった。 ・(独)日本学生支援機構より、令和2年度新型コロナウイルス感染症対策助成事業の支援を受け、事業の趣旨により、学生への生活支援として学生全員にクオカードを配付した。(生活が困窮していると認められる学生6名については、さらに増額したクオカードを配付) ・博多学園奨学金、日本学生支援機構奨学金およびオリコの提携ローンなどの紹介。 ・平成26年12月25日付で厚生労働省から各科「専門実践教育訓練講座」の指定を受け、社会人のキャリア形成に対する教育訓練給付金が平成27年度より該当者に給付された。(29年度新規8名、30年度新規7名、令和元年度新規5名、令和2年度新規3名、令和3年度新規6名)	
○学生の健康管理を担う組織体制	A	・年度当初に健康診断を実施。体調不良時は、校医(安元医院)を受診するよう促している。	
○課外活動に対する支援体制	B	・保健衛生委員会で、インフルエンザ対策等学生の健康管理を担当。日常的には担任がホームルームでチェックしている。コロナウイルス対応では、3密を防ぐよう工夫している。	
○学生の生活環境への支援体制	B	・放課後、各科の補習等に教室、図書室、PC教室等を利用。	
○保護者との適切な連携体制	A	・民間学生寮やアパート等の業者紹介を実施。 ・日々の状況(体調、成績、行事、研修、ワクチン接種、実習参加等)に応じて連絡を行うなど工夫している。成績不良者や学校生活に問題のある場合は、その都度連絡を行い、必要に応じて来校いただいている。また、授業料等の延納などについても、早めに連絡をとり、放置せず柔軟な対応に努めている。	
○卒業生への支援体制	A	・国家試験不合格の卒業生は、補講を行ったり聴講生として受け入れたりしている。 ・教員が卒業生の職場を訪問し、状況を確認したり相談に乗るなどフォローも実施している。 学校でも、技術指導やアドバイス、再就職等いつでも相談できる体制を取っている。	
○社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備体制	B	・同窓会でもホームカミングデーを実施し、卒業生が集まれる場を提供している。 ・AOⅠ期入試は社会人限定で行っており、AO(Ⅱ・Ⅲ)入試と一般入試は社会人も受験できる。働きながら学ぶことへの対応は現状難しいが、正規の学生としては十分な対応を実施している。特に、3科共に国の専門実践教育訓練講座に指定されており、社会人の学費支援に貢献している。	
○高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	B	・CE・DHでは博多高校の看護専攻科と連携し、職業講話や体験授業などを実施、またDHは普通科1年生への口腔衛生実習も実施している。高校からの依頼による臨床工学技士・歯科理工士・歯科衛生士の職業ガイダンスも随時実施している。	
(6) 教育環境 ○施設・設備の整備体制	A	・平成23年度に新校舎完成・移転した時点で、教育施設はほぼ最新の設備となった。以後も、DTへのCAD・CAM、DHのユニットの買い替えやデジタルパノラマ装置、CEの人工心臓装置、令和元年度にはDTに3Dデンタルスキャナーを購入するなど、最新設備の整備に努めている。	(6)教育環境について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
○実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備	A	・また、令和2年度には国庫補助金を受け、校内のネットワーク機器を更新し再整備した。 ・CE、DHの実習施設は十分確保出来ている。DTのインターンシップ先も毎年増加している。	
○防災に対する体制の整備	A	・防火・防犯委員会を中心に、火災時の避難訓練や、地震時のシェイクアウト訓練を実施、非常時用の備蓄、危機管理マニュアルの整備等を行っている。平成27年度新入生より、防災サバイバルセットを購入し備蓄している。	

CE=臨床工学技士科、DT=歯科技工士科、DH=歯科衛生士科

評価項目	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
(7) 学生の受入れ募集 ○高校等への情報提供体制 ○学生募集活動の適正性 ○募集活動における教育成果等の正確な伝達 ○学納金の妥当性	A A A A B	・福岡県はもとより、九州各県・沖縄・山口県の高校450校にパンフレットを送付。高校訪問も積極的に行い、高校教員への広報活動や、生徒へのガイダンス等に注力している。また、ホームページにも注力し、学校概要他本校の各種データを公開、令和元年度からはシラバス、成績評価基準など公開項目も拡充し、ブログやSNSなどでも最新の情報を発信している。広報用動画の作成にも取り組み、学生募集に注力した。 ・令和2年度は、コロナ禍の影響で県内・県外各地域や高校個別の状況に合わせ、高校訪問等も一部限定的な対応となったが、資料送付や電話連絡等による対応や、オンラインによる学校紹介の実施などの新規手段により、広報活動を多角的に実践することができた。 ・学生募集は、法令や高校進路指導協議会方針等を遵守し、適正に実施している。 ・各科国家試験合格率先を、学校概要、職業実践専門課程の基本情報はホームページに公開しており、正確なデータを伝えている。 ・近隣の同学科と比較して妥当な水準。	(7)学生の受入れ募集について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
(8) 財務 ○中長期的な学校の財務基盤の安定性 ○予算・収支計画の有効性・妥当性 ○会計監査の適正性 ○財務情報の公開	B A A A	・専門学校単体では必ずしも安定しているとは言えない面もあるが、学校法人博多学園の中長期的な財務基盤は安定している。 ・年度初めに予算を確定し、予算に即して実行している。 ・監査法人、学園監事による監査を実施。 ・平成24年度よりホームページで直近2年分を公開している。	(8)財務について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
(9) 法令等の遵守 ○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営 ○個人情報保護対策 ○自己評価の実施と問題点の改善 ○自己評価結果の公開	A A A B A	・法令を遵守し、コンプライアンス宣言をはじめ各種規程も整備している。 ・過去2年間にわたる教職員勤務時間データを蓄積し分析した上で、令和2年度より年間変形労働時間制を導入した。また、時差出勤制度も併せて導入し、時間外労働の削減に繋げることができた。労働基準法上の年間5日間有給休暇取得義務についても教職員全員が完遂し、ワークライフバランスを意識した働き方に努めた。 ・SKYSEA導入を始め情報セキュリティ対策を高度化し、情報漏洩が発生しないよう、規程の整備、全教職員へのセキュリティ研修実施など運用強化を図っている。月に一度学園全体として情報セキュリティ担当者を開催しインシデント報告等を行うなど、個人情報の管理を徹底している。また、マイナンバー制度にも学園に専門部署を設け適切に管理している。 ・学校関係者評価委員会での指摘・意見等を踏まえ、極力早期に検討・改善を行っている。 ・学校関係者評価の内容を十分反映した評価結果を、平成24年度よりホームページで直近2年分を公開しており、令和元年度より公開する項目を増やした。	(9)法令等の遵守について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
(10) 社会貢献・地域貢献 ○学校施設等を活用した社会貢献・地域貢献活動 ○学生のボランティア活動の奨励・支援 ○地域に対する公開講座、教育訓練等の実施	B B B B	・学校施設を学科関連業界・企業に利用してもらうことが、社会貢献への一助に繋がる。令和2年度はコロナ禍の影響で、業界団体・企業セミナーの利用は僅少であったが、平成27年度より令和2年度の引き続き、歯科技工士国家試験会場として提供している。 ・地域との関係では、文化祭で施設を開放しているほか、1階ビロティをコミュニティスペースとして開放している。 ・学生指導・地域対策委員会や学生によるボランティア活動～地域の歩道・道路清掃活動など ・業界団体の街頭アンケート活動や「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」「KASUYAデンタルフェア」「高齢者施設の夏祭り」などに学生を参加させている。 ・ただし、令和2年度については、コロナ禍における相次ぐイベント中止・規模縮小や、活動自粛要請の影響により、実施準備は進めていたものの十分な活動が実施できなかった。 ・DHは舞松原公民館で歯科講習会を実施。ひまわり祭の際には、来校者に対しCEは簡単な健康診断、DHはPMTC(Professional Mechanical Tooth Cleaning 専門家による機械的な歯面清掃)等を実施している。また、地元老人クラブを招いて、CEは健康セミナー、DHは歯や口腔機能向上のセミナーを実施。幼稚園実習の際には、保護者への口腔衛生指導もしている。ただし、令和2年度についてはコロナ禍の影響により、十分な活動ができなかった。	・適切な対応が図られていると認められる。
(11) 国際交流 ○国際交流についての体制	B B	・平成14年11月、韓国 釜山カトリック大学と姉妹校提携、以降毎年交流を続けている。(DT) また、研修旅行でも平成27年・28年にOEが国立台湾大学醫學院付設醫院を訪問、29年はDTが台湾で開催された国際歯科技工学術大会に参加するなど、国際交流の機会を設けている。また、令和元年度DT卒業生が、令和2年度から姉妹校の釜山カトリック大学へ留学している。	(11) 国際交流について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。

評価項目		具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
①目標	国家試験合格100%	全員合格100%	C	受験者33名 合格予定30名 合格率90.1%	・適切な対応が図られていると認められる。
	各学年における退学者防止	資格取得・医療従事者への意識付け、勉強へ集中するクラス運営を実施する。臨床工学技士への憧れを持たせる授業工夫や現場CEによる講義や講話を設け、年間を通してのモチベーション低下防止を図る。1年生においては日頃から学生の履修状況を把握し、必要に応じて面談や補習などを盛り込み低学力者へのフォローを行う。5～6月に学習・学校生活状況を確認し、追いついていない学生に関しては個別対応を行う。	B	退学者:1年生2名、2年生1名、3年生0名(計3名*前年度6名) 授業から日常生活の中で気になる点があれば、声かけや個人面談を実施。成績不振者に対しては学習方法の提案や補習を設け、学習の定着を心掛けた。前期(オンライン授業)と後期(対面授業)で現場CEによる卒業生講話や講義を実施、臨床やCEに対する職業観・憧れを持たせる工夫を行った。	
	遅刻・欠席者の減少	8:45には更衣を済ませ退出完了、全員8:50着席を目指す。HRでの繰り返しの声掛けや月出席状況の掲示するなど学生自身に把握させ、数回続いた学生には面談を行い改善策を検討する。同時に保護者連絡を行う。	C	1年生における遅刻が多かった。(特に11月・12月) また、一部の1・2年生に時間数不足の科目も発生した。 担任による繰り返しの電話連絡、個人面談、保護者連絡の実施を行った。 ＜月平均数(前年度)＞*4月休校 5・6月オンライン授業 7月分散登校 HR遅刻:3年2.1名(1.7名)、2年5.3名(2.2名)、1年7.3名(2.7名) 遅刻:3年8.5名(12.2名)、2年7名(19.1名)、1年14.7名(5.8名) 欠席:3年2名(11.0名)、2年1名(15.0名)、1年1.1名(2.9名) 早退:3年0.3名(1.1名)、2年0.2名(0.8名)、1年1.1名(0.3名)	
	医療人・社会人教育の実践	①医療従事者としての自覚を持ち行動できる学生を育成する。 4月始業日にオリエンテーションを設け、各学年における臨床工学技士になるための目標立てを行うなど意識付けを行う。 病院見学や登院式など行事を利用して意識付けや振り返りの機会を設ける。 ②社会人として時間管理ができる学生を育成する。 教員自身も講義や対応時の時間を守り、時間厳守を行う。 ③学則に則り、ぶれない指導を実践する。指導ポイントを科内で共有しあい、ベクトルを合わせる。 ④外部講師等による禁煙指導を再開する。	C	①4月から休校となり、各学年とも十分なオリエンテーションができないままの1年であった。 特に1年生は対面講義が開始になっても、学ぶ姿勢への集中がなく不安な部分があったが、繰り返しの声掛けや学習意欲の高い学生の存在により、少しずつクラスがまとまり、落ち着きが見えてきた。 見学や様々な行事を利用した指導も行事中止により打ち込みができていない為、次年度しっかり取り組みたい。 ②1年生ではオンライン講義の段階から遅刻が多く見受けられた。 ③教員によっては指導ポイントの捉えが違う時があった。各学年の問題点は終礼等で共有しあっているので、コツコツとベクトル合わせをしていきたい。 ④禁煙指導の再開ができなかった。5Fや6Fに煙草の吸殻があり、禁煙ができていない可能性があった。	
	体験入学の充実	①高校訪問・ガイダンス等の工夫を行い、知名度upにつながる活動を検討する。 体験入学者数の増員、出席率70%を目指す。 ②前年に引き続き、現場CEも巻き込んだ"カッコいい""楽しい"と感じる体験入学内容を実施する。 ③大学にはない当校の強みと魅力、取り組みを映像や写真を盛り込んだ学科説明を行う。	B	①体験入学参加数(新規のみ)58名、出願者36名、出席率62%(前年度62%) ②オンライン参加による現場CEの特別体験入学であったが、SA(チュードントアシスタント)の補佐もあり現場を想定した手術体験が実施できた。毎回SAによる"楽しい"体験が実施でき、入試でも体験入学で受験を決めたなどコメントがあった。 ③映像の作成をし、体験入学で学科説明として利用した。	
②カリキュラム	国家試験に合格させることができる授業の実施	重点科目では、国家試験過去問題が解ける授業となる学習目標(GIO)・行動目標(SBOs)を組み立てた授業設計を実践する。 履修内容の多い科目では、ME対策(ME演習)、国家試験対策(臨床工学総論)と連携して、定期的な演習問題を行い知識の定着を図る。	B	臨床工学総論にて各学年で履修が完了する重点科目の振り返りを行い、過去問題による修了試験を実施したが、多くの欠点者が発生した。日頃の講義と国家試験対策が連動していない科目があった。国家試験出題に見合った授業内容、国家試験に出題された内容を講義できているのか、またME2種や統一模擬試験などにも対応できているのか見直しが必要。	・適切な対応が図られていると認められる。
	シラバスの精査継続	工学系非常勤講師におけるシラバスの精査に着手する。	C	国家試験出題に照らし合わせた学習目標のシラバスなのか、工学系非常勤講師におけるシラバス精査は着手できなかった。	

評価項目		具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
③臨床実習・病院見学・インターンシップ	臨床実習に必要な知識・技術の向上	2、3年生合同臨床実習オリエンテーションの継続実施、事例検討会を通して実習中態度や言葉遣いなど実習生として必要なマナーや姿勢、実習に対する意識付けをおこなう。 実習ノート(レポート)の書き方を学ぶ合う「レポート検討会」を設け、臨床実習で求められる知識とレポート力の事前指導をおこなう。	A	臨床実習中止となったため、学内に代替実習を実施。 2年生では福岡東ほばしらクリニックの協力をいただきWeb実習(3回分)を実施。患者様への治療前からの対応・穿刺・治療開始による装置操作など実際の技士業務や血液データの見方など臨床実習でしか学べないことを体験することができた。作成したレポートは指導くださったCEにより添削していただけた。 3年生では2日間の病院見学とホストサイエンティフィックジャパン株式会社による心臓カテーテル関連の実習とWeb実習をすることができた。 合同オリエンテーションやレポート検討会は次年度取り組みたい。	
	OSCEの充実	①3年生:3年生における臨床実習で求められる最低知識・技術を図る、呼吸・循環分野以外の内容も盛り込む。 ②2年生:患者接遇手法に関して看護専攻科学生との合同ワークを行う。前年度改訂した内容(数種類の臨床場面を想定した内容、患者設定)の試験を行う。	A	臨床実習が中止となったが、学内実習の振り返りを兼ねてOSCEを実施。 ①3年生:呼吸・循環分野以外の内容は盛り込めなかったが、問題なく終了。 ②2年生:血圧測定と接遇のブースを分け、模擬患者として1年生も参加。 患者接遇の想定場面を工夫。数種類の臨床場面(血圧測定後や体調不良など)を想定した患者設定で行った。	
④国試対策	各学年における取り組み	①1・2年混合の「勉強会」の継続実施。学生同士が教え学び合う学習時間を通して、知識の定着を図る。 ②各学年の履修状況に応じた模擬試験を実施。それぞれの学年で身に着けるべき内容は補講等を通して定着させ、進級させる。	B	①1・2年混合の「勉強会」は感染防止により中止。 ②1、2年での模擬試験は回数が減ったが実施はできた。統一模擬試験へのチャレンジなど積極的な参加も見られた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	国家試験対策プログラムの継続構築	①履修が終了する重点科目は臨床工学総論にて国家試験に出題される応用問題への学力づくりを行う。定期的な確認試験を設ける。確認試験や模擬試験での不合格者には何度もチャレンジさせ、問題を通して理解を深めさせる。特に工学系国家試験対策を強化する。電気工学、電子工学の成績不良者には補講を設け、成績向上を目指す。 1月に受験する全国統一模擬試験では、2年生の正答率40%以上、3年生正答率60%以上を目指す。 ＜重点科目＞ 1年生:解剖生理学、電気工学、情報処理工学、生体機能代行装置学(浄化)、臨床医学総論(腎・泌尿器、消化器、感染症) 2年生:電子工学、生体計測装置学、医用治療機器学、医用機器安全管理学、生体物性工学、臨床医学総論(内分泌、代謝、血液、呼吸、循環) ②自主学習支援として国家試験対策システム(フリーライン)を活用する。定期的に配信(4・7・11・3月) ③ME・国家試験対策の内容と進捗状況・成績状況を終礼で確認する。	B	①過去問題の取りこぼしをなくするために、過去問道場(過去問トレーニング)の実施や過去問題ベースの模擬試験不合格者には何度もチャレンジさせ、過去問題対策を行った。 今年の取り組みの1つであった電気工学、電子工学、機械工学等の成績不良者に対して、成績状況に応じて強化補講を実施、補講以外の自習学生への対応にも取り組みが見られた。 ≪全国統一模擬試験(1月)の結果≫ 2年生正答率35.5%、3年生正答率56.7%(40%未満2名) ②国家試験対策システムCE=PassNET(フリーライン)は活用できた。定期配信(4・7・11・3月)まではできなかった。 ③3年生における国家試験対策の進捗状況・成績状況の共有は積極的に行い対応ができたが、他学年の成績状況の共有はしても対応検討が不十分であった。	
⑤資格取得	ME2種実力検定試験の合格率向上	重点科目に絞った対策の継続実施。 2年生合格率50%、3年生合格率100%を目指す。	B	5月のオンライン授業開始とともに、2・3年生におけるオンラインによる対策授業開始。結果的に感染拡大防止の為、試験は中止となったが、試験中止が確定したあとも、対策講義を実施し、MEに対する学力底上げを実施した。 試験センターより配布された公開問題で2.3年生合同模擬試験を行った。	・適切な対応が図られていると認められる。
	ME1種実力検定試験へのチャレンジ	ME2種合格者には1種受験のチャレンジを促す。 受験手続きを教務でおこなう。	B	2年生1名の受験希望者があり、自主学習に取り組んでいたが、感染拡大防止の為、試験中止となった。	
	B検、J検、工業英検の合格率向上	・B検:2年生前期での受験、対策講義を増やし複数教員で担当する。 臨床実習につながる臨床現場を盛り込んだヒシネスナー教育を行う。 3級合格率100%を目指す。 ・J検:2年生後期での受験、3級合格率100%を目指す。	B	①B検3級(2年生) 対策講義は複数教員で分担。 受験者数41名、34名合格 合格率82.9%(前年83.3%) ②J検3級(2年生) 受験者数40名、合格39名、合格率97.5%(前年度94.3%)	

評価項目		具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
⑥教員研修・学会等	教員の授業力・指導力向上	①学会、講習会への積極的参加 ②授業研究(8月)の継続実施。指導・授業力・スキルの向上を目指す。 ③臨床研修の実施	A	①参加予定としていた学会や勉強会はほとんどが中止。 日本臨床工学技士教育施設協議会 教育研究会「オンライン授業に関するWebセミナー」 (12/5:平安、木下 *池永、平山は入試対応後参加) ②夏期休暇短縮により、実施できなかった。 ③病院内への立ち入り制限のため、実施見送り。 外部研修による指導・授業力の学びはできなかったが、オンライン講義の手法やオンラインによる理解度を把握できるよう、教員内で協議をしながら、国家試験対策システムCE-PassNET(フリーライン)を利用したWeb小テストやWeb模擬試験を実施。オンライン講義だけでなく習得度や成績状況を把握できるように工夫をした。	・コロナ禍において研修の機会が減少したことは事実であるが、修得・向上のための研鑽は続けていることから、評定の変更は不要ではないか。 →ご指摘の点を踏まえ、評定をAに据え置く。
	関係団体との協力体制強化	養成校連絡委員会を通して、福岡県臨床工学技士会との協力関係を継続する。学生を含めた学会やイベント参加や教育講話や学内実習への講師派遣を依頼する。	B	福岡県臨床工学技士会に関する活動はほとんどが中止。 例年、学生がボランティアとして参加していたイベントも中止となった。 学生会員として参加予定としていた福岡県臨床工学会も次年度への延期となった。	
⑦科の行事	病院見学 [1年生]	前期では患者と透析治療に関する見学、後期では手術室業務を始め臨床工学技士業務全般の見学を通してモチベーションアップ、職業観育成を目指す。	B	7月に見学予定としていたが、病院側受入不可により延期。 感染状況によっては3月での実施を検討したが、再度の感染拡大が見込まれたため1年次における見学を中止とした。	・適切な対応が図られていると認められる。
	博多高校看護専攻科 合同実習 [基礎技術・1年生]	移乗・シーツ交換・バイタル測定、その他基礎技術に関するグループワークの継続実施。	A	看護専攻科1年生との移乗・シーツ交換・バイタル測定実習以外にシミュレーション人形を使った呼吸音聴取や手洗いなど多くの実習を行った。午後は要点をまとめ、グループ間でチェックしあう時間となった。 遅刻や実習器材でふざける等、看護専攻科学生にご迷惑をおかけする問題が発生したため、担任と実習担当者による事前指導の徹底を改善していきたい。	
	高齢者実習(健康セミナー) [2年生]	アクティブラーニングを通して、疾患-治療(医療機器)-患者対応を体系的に学び、体験させる。 医療従事者の基本、マナー、高齢者の特徴等の事前講義・実習を行い、高齢者とのコミュニケーションスキルを身につける。	A	高齢者をお招きしてのセミナーは感染を考慮して中止。 1年生に対してのセミナーに変更。運営委員を中心に「1年生の為になる”また”楽しく”仲良く”をテーマを考え実施。	
	臨床実習事前懇談会 [2・3年生]	前年度より継続。実習生と指導者が臨床実習に向けてしっかり打合わせができるよう準備を行う。 指導者の欠席がないよう事前に確認を行う。	B	臨床実習は病院側受入不可の為、中止。 学内における代替実習となったが、学内実習用要項を作成、オリエンテーションを設けて、Web実習や数日の病院見学に対する目標立てを行い、目的意識を持たせて学内実習に臨ませた。	
	登院式[2年生]	臨床工学技士として第一歩を踏み出す意思表示をしっかりと考えさせる機会を設ける。実習生授与の登壇降壇の検討。 保護者には早くの案内発送(7月中)を行い、多くの保護者の参列を目指す。	B	臨床実習は病院側受入不可の為、中止となり、2年次における登院式も中止となった。 次年度、2.3年生合同の登院式を実施する予定。	
	博多高校看護専攻科 合同実習 [患者接遇・2年生]	臨床現場で必要となる患者接遇に関して、臨床実習を経験した看護専攻科学生よりレクチャーを受けながら、患者への声掛けや受け答えについてのスキルを学ぶ。 プロセスレコードの作成方法も学ぶ。	A	看護専攻科学生と当校学生のペアグループでプロセスレコードの記載方法、患者とのやりとりのポイントや発言からアセスメントする際の着目点など幅広く教えていただいた。 感染防止対策より複数教室に分かれての実施であったが各会場をZOOMで中継し発表も行った。 臨床実習中止であったため、臨床での実践はできなかったが、医療従事者としての心構えを考える良い機会となった。	
	患者接遇発表会[全学年]	前年度と同様、2年生での発表では1年生が参加、3年生への発表では2年生が参加する。	B	臨床実習は病院側受入不可の為、中止。発表会も中止となったが、現場で求められる患者接遇を考えながらの学内実習を実施し、レポート作成を行った。	
	実習発表会 [2・3年生]	前年度同様、午前は2年生の発表(1年生聴講)、午後は3年生の発表(2年生聴講)とし、実習指導者の出席も依頼する。 何を学べたか、感じたかを重点に置いた他学年も学べる発表内容とする。	B	臨床実習は病院側受入不可の為、中止。 11月に予定していた2.3年生の合同臨床実習発表会は実施できなかったが、2年生の代替実習期間の中で、1年次におこなった学内研究の発表会を1年生参加のもと実施した。	

評価項目		具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	臨床実習事後懇談会	前年同様、現場指導者の方も振り返りやコメントが発表できる時間を設け、今後の教育に活かす。 準備の不足がないよう十分に確認をする。	B	臨床実習中止の為、11月に予定していた事後懇談会も中止となったが、学内における代替実習についての振り返りを臨床実習で使用する自己評価表を用いて行った。 前年に引き続き、関東地区（東京・神奈川）における病院もしくはメーカー見学研修を12月に計画していたが、感染拡大防止より3年次へ持ち越しとした。 学会中止の為、不参加。 学内実習（生体機能代行装置学など）で消毒や防護など感染対策に対しての自由研究を実施。2年生から1年生への発表会を実施した。 看護専攻科学生との合同実習は感染防止対策をしっかりと行いながら例年通り実施できた。1年生に対しての実習では、先輩との交流がなかった1年生にとっては、情報交換もできる機会となった。 昨年に続き腎疾患に関するアセスメントに関するグループワークを実施。感染防止対策より会場内をZOOMで繋げ、各部屋から代表グループによる発表を行った。 模擬試験では1回目では首位を、2回目も上位10位に入ることができた。	
	研修旅行〔2年生〕	国外研修（台湾）を再検討する。不可能であれば、国内研修（関東地区）を継続実施。	B		
	福岡県臨床工学会への学生発表〔2・3年生〕	2年生では1年次での自由研究を更に深め、学生セッションでの発表を目指す。 全学での積極的参加を行う。	B		
	博多高校看護専攻科 合同実習 〔医療機器実習・3年生〕	前年に引き続き、3年生が主体となり説明する医用機器実習を実施。 その事前練習も兼ね、5月に新1年生に対して、医療機器説明をおこなう。 説明の機会を通して医療機器の取り扱いについて理解を深める。	A		
	博多高校看護専攻科 合同学習 〔医療系模擬試験・アセスメント3年生〕	医療系模擬試験では、看護学生に負けないよう、国家試験対策を通してしっかり勉強をさせる。 臨床現場で行われる看護と医療機器による治療を考えながらアセスメント力を学ぶ。	A		
⑧就職	全員内定	卒業時85%内定を目指す。余裕ある就職試験スケジュールを組ませ、繰り返しの面接指導を行い、第一希望施設内定を目指す。 社会人としての心構えを意識させ、日頃から教員が模範となり、挨拶や良い印象を心掛ける指導を実施する。 個人面談を通してヒヤリングを行い学生に見合う就職ができるよう支援する。	B	B 卒業時内定：25名/33名中 75.7%（前年68%、病院・クリニック21名、企業4名） コロナ禍で求人減少中の中であったが、卒業生や臨床実習先からの求人依頼は有難かった。 5月より定期的に就職オリエンテーションを実施。【5/14、6/16、7/16、8/5、10/17】 模擬集団面接や個別指導など面接に対する準備にも力を入れたが、第一志望施設内定者は25名中8名であり、その他の学生は繰り返しの受験であった。CE養成大学が増え就職内定倍率上昇（2倍以上）がみられる。日頃からの社会人教育を通して大学生に打ち勝つ印象の良い学生育成が必達。 また、今年度はWebによる説明会や面接試験が増えた。次年度ではWeb面接対策も力を入れたい。	⑧就職について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他	科内業務の分担	行事運営の業務分担（担当科目・講師対応等）の継続。担当科目・持ち時間の変更。 終礼等で業務進捗を確認し、教員全員で意識・協力しながら余裕ある準備を行う。	B	行事中止による時間割変更や臨床実習中止における学内実習対応など予定外の業務が発生した一年であった。 終礼等での業務進捗確認は行えたが、それぞれに業務が発生していたこともあり、協力し合いながら余裕ある準備や対応はできていなかったように感じる。 ・前年度に引き続き、時間数不足者の時間数補填、進級保留者に対する補講等各学年でカリキュラム外の時間を費やした。成績を含め問題のある学生への早期からの対応や補講をしなくてよい授業力向上ができていない。 ・日頃から成績不振学生は把握できているため、年度末に照準を合した取り組みではなく、早期の取り組みを科内で実践できるよう力を合わせていきたい。 ・常勤講師として工学系専任教員を採用した。工学系講義・実習の即戦力として期待の星である。 製鉄八幡病院の現場技士を非常勤講師としてお迎えし、血液浄化に関する講義・実習を実施。 29期生と30期生の合同ホームカミングデーと卒業後勉強会を2月に予定していたが、感染拡大防止より実施できなかった。 次年度はZoomでの参加も取り入れて実施したい。	・適切な対応が図られていると認められる。
	ワークライフバランスの推進 変形労働時間の順守 働き方改革の実施	副担任と業務分担し、担任業務負担を軽減する。振休・有給休暇取得の推進 業務の段取りと期日を考え、改善し、定時内業務終了を実行する。補講の曜日を決め、時差出勤を利用する。 常勤講師、次年度の非常勤講師の増加を視野に入れた講師選定を行う。	C		
	同窓会との連携	・合同ホームカミングデーの継続実施。 ・第4回卒業後勉強会の開催、卒業生と連携を取りながら多くの卒業生が参加する魅力ある研修会を開催を目指す。 ・同窓生による組織作りへの着手	B		

全体共有 > 職業実践専門課程 > 学校関係者評価委員会 > R2学校評価 > R2年学校関係者評価 > CE

評価項目		具体的方策	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
	国家試験対策プログラムの構築	<ul style="list-style-type: none"> * ① 改定したシラバスの行動目標に沿って学習到達度はミニテストで確認し、ノート製作はユニット終了時に把握する。 * ② ユニット毎の学習到達度を把握するため確認試験を実施する。成績評価の分布を作成して学習レベルを示す。 * ③ 非常勤講師の授業教材(スライドやプリント)に既出の国試問題を新たに追加する。専任教員が非常勤講師の授業環境を整備する。 ④ 実技試験対策として、週末課題(ワックスアップ)を週1本製作し、歯の造形トレーニング行う。 ⑤ 国家試験対策模擬試験は22回実施する。 ⑥ フリーラインシステム問題を入力し、国家試験対策模試として利用する。 	A	<p>(1年)</p> <p>再試験対象者・・・(前年度)10/35名が欠点34個 1人あたり0.97科目 (今年度)12/37名が欠点32個 1人あたり0.86科目 (微減) ミニテスト・・・9科目45回の学習到達度の確認試験を作問・実施した。 ノート製作・・・1年次の国家試験対象科目の15科目(夏5冬9春1週末2)で宿題にした。→シラバスを活用した自己学習を実施することができた。 スライド作成・・・非常勤講師の3科目14種類を新たにスライドにした →非常勤講師に代わりに授業を行うことが可能になった。 オフィスアワー・・・コロナ対策でオフィスアワーの時間を授業に変更した。 →授業の時間調整ができたので助かった。 週末課題とトレーニング・・・インビクタスワックスアップ22個(夏4、冬3、春4、週末11)歯のデッサン10枚(春2、週末8)彫刻の練習を早期に開始し2年次の足掛かりをつくった。</p> <p>(2年)</p> <p>国家試験・・・37名(聴講生2名を含む)が全員受験し全員合格した。(全国平均95.8%) 実技対策・・・コロナ禍の時間調整が大変で彫刻トレーニングを本格的に始めたのが1月からとなり、まんべんなく練習ができなかった。 学科対策・・・今年度は出題基準改定があったため、国家試験対策模試(1600問)を大幅リニューアルした。また、新出題基準の新設問題を320問作成した。 分布表の作成・・・国家試験対策模試1600問を出題基準の表に入力し、分野ごとの対策範囲を視覚化することができた。 対策の工夫・・・実習で取り扱っていない装置や器具について、ネットや書籍から写真を探し、学生に視覚的にみせた。鑄造欠陥やクラスプなど種類が多いものは、一覧表にして区別がつきやすくなるようにした。 対策模試出題基準・・・模試の前に出題基準を学生に配布。学習範囲を絞って確実に修得して欲しい箇所を示した。</p> <p><u>* コロナ禍ではあったが、5人の協力で国家試験対策を実践することができた。</u></p>	<p>・適切な対応が図られていると認められる。</p>
	入学定員充足率 100%以上(35名)	<ul style="list-style-type: none"> ① 教員担当を常に3名体制で臨む。(業務の固定化を無くし、誰でもが募集の業務に対応できるようになるため) * ② 体験入学教材の新規開発を2つ(型取りなど)。 ③ 講義、実習、見学、通信講座説明は、2年連続で良い流れだから継続する。 * ④ スライドは実績が上がったので、AバージョンとBバージョンを用意してリポーター対策を図る。 * ⑤ スライドのCパターンとして学校行事の内容を含めたものを新しく作る。 ⑥ SAは、憧れを持たれやすく、面倒見の良い学生を起用。→新1年生からも同様の学生を起用したい。 * ⑦ (入学者選考の方法 実技試験)を検討する。(ワイヤーヘンディングなど)(他校の方法) * ⑧ 高等学校ガイダンスへの参加(積極的に参加)特に、長崎方面に出向いて体験入学の参加者を増やしたい。 ⑨ 学生の頑張っている所、技工の奥深さなどを盛り込んだ)ブログの更新を最低月2回行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3名で行う予定だったが振休の取得を勘案して2名体制(山田・石橋)で対応した。 ・入れ歯チョコの開発をしている最中。通信講座のやり取りをプリントにした。 ・スライドは、毎回マイナーチェンジして話し方も参加者に応じて工夫をした。 ・SAは1年と2年の相性が良くチームワークが良かった ・次年度に向けて実技課題としてワックス型抜きを開発した。 ・長崎方面の高校訪問はコロナ禍のため自粛したが、通信制高校を16校訪問することができた。 <p><u>* 体験入学からの出願率54%であったが母数が少ないため、定員に届かなかった。次年度は高校訪問をして体験入学の参加者を集めます。</u></p>	
①目標	就職内定率	<ul style="list-style-type: none"> * ① 就職意識調査を行う。 * ② 就職アンケートを行う。 ③ キャリアデザインの講義を行う。 ④ 個別相談を行う。 ⑤ 9～11月以降、個別企業説明会を誘致する。 	A	<p>《就職先の内訳》 歯科技工所31名 歯科医院2名 大学病院1名 その他(実家)1名 福岡県22名 熊本県3名 大分県1名 長崎県1名 山口県1名 愛知県1名 兵庫県1名 大阪府2名 千葉県1名 神奈川県2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に教務主任がキャリアデザインに関する講話を2回実施。 ・5社の個別企業説明会(愛歯・アシスト1・サンエイデンタル・デンタルシステム・コアデンタルラボ横浜)を実施した。 ・5社の企業見学(マイスターラボ17名・イングデンタル3名・アクティブ13名・愛歯5名・和田精密12名)を実施した。 ・就職に関する業務を5人で分担した。 就職相談・履歴書チェック(山田・澤田) 面接指導(矢野・石橋) 実技指導(山田・石橋) 企業連絡・書類準備(松山) <p><u>* チームで対応することができた。卒業時の学生アンケートでも評判が良かった。</u></p>	

評価項目		具体的方策	自己評価	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	<p>皆勤登校率 (クラス単位)</p>	<p>入学生は、まず歯科技工トレーニングで学生の特徴を把握し相性を分析する。DTレクリエーションでグループ形成をしながらクラスの輪を構築し、学生の居場所を作り、ドロップアウトを防ぐ。5月以降は専門知識の落ちこぼれが発生するので、オフィスアワーで底上げ支援を行う。 9月の前期試験に向けて非常勤講師と連携し基礎学力の低い学生の対応をする。技術指導は、褒め指導を基本とし、学生が練習することを躊躇わないようムードをつくる。年間を通じて、皆勤の大切さを指導して1年間の全員皆勤を目標とするため、振り返りシートで学生の特徴を把握する。 2年生は、各学校行事に対して、ねらいを作る。スケジュールを月ごとに作成し教室に掲示。企業見学で得た情報や総括の内容を、教室に掲示したり、学生の就業意識に関連して指導する。九州大学見学・研修旅行・インターンシップに向けて態度面は笑顔・挨拶・良い返事を、知識面はメモ取り調べ学習(図書活動)に繋げる。お互いに切磋琢磨する中で、学校にくるきっかけを作る。 両学年共に定期的な保護者との連絡、終礼等での教員間の情報共有、個人面談の実施、偏りのない学生への接し方、学生をよく観察するなど基本をしっかり取り組む。</p>	B	<p>(1年) 皆勤18名(48.6% 前57.1%) 精勤8名(21.6% 前25.7%) 他11名(29.7% 前17.1%) 9~11月に体調不良での欠席が多くなった。次年度は体調管理の指導を徹底し、特にこの期間は注意したい。</p> <p>(2年) 皆勤18名(51.0% 前18.7%) 精勤6名(17.0% 前31.2%) 他11名(31.0% 前50.0%) 精神的に不安定な学生と体調不良による欠席や遅刻があったが、前年度よりは改善することができた。</p> <p>* 傾向として9月あたりから崩れることが判った。また時間数不足補習後は登校改善がみられることから、次年度に工夫が必要である</p>	
	<p>退学・休学の防止 (クラス単位)</p>	<p>①必要に応じて、保護者と密に連絡をとる。 ②入学生に対しては、1ヶ月の歯科技工トレーニングの中で、学生の特徴をしっかり観察し、特別に手がかかる学生の抽出を行う。 ③学力による退学を防止するため、専任教員による講義を各科目の初回に行い、学生の質問を受ける時間を明示する。 ④ライン、ツイッターによるトラブルを軽減させるため、入学オリエンテーションや日常のHRで注意喚起をする。 ⑤学生が抱える悩みについて気付きを持つために、徹底した学生観察を行い、些細なことも終礼で情報共有を図る。 * ⑥友達の輪による助けを大切にす。</p>	A	<p>(1年)退学者なし ・仲が良いクラス形成を意識して指導にあたった。 ・クラス目標設定を年3回(5,6,8月)計画しクラスでの共有を図った。 ・欠席が続いた学生は、放課後に遅れた実習などのサポートを行った。 ・低学力層の対応が後手に回り2名の原級留置を出してしまった。</p> <p>(2年)退学者なし ・欠席、遅刻がとりわけ多い学生に関して保護者連絡を行い、欠席が目立った時期には教務主任と共に面談を行った。時間数不足の補習が国家試験直前までかかってしまったが途中退学を防止することができた。 ・学生への声掛けを意識し、教員間で情報共有することができた。</p> <p>* 両学年とも退学者をゼロにできた。次年度も引き続き取り組みたい。</p>	
	<p>同窓会との連携強化</p>	<p>* ①クラス同窓会の開催を促し担任らが出席をする。(50周年の種まき) ②ホームカミングデーで図書の閲覧を行う。</p>	B	<p>コロナ禍のため卒業生が帰省しなかったりしたため、計画はしたもののホームカミングデーは開催できなかった。</p>	
<p>②カリキュラム</p>	<p>企業連携授業の充実</p>	<p>KaVo、デジタルプロセス社、松風と協力しながら先端技術について授業を構築し、学生の専門性と向上心を養成する。 * 愛歯の授業を新設し、スライドや配布資料など講師と相談をしながら実行する。</p>	A	<p>・株式会社松風(1年レジ前装冠(8h) 2年マウスガード(8h)) KaVo+デジタルプロセス株式会社(1年CAD/CAM(16h)) 株式会社愛歯(2年歯科技工実習(講義)(5h))</p> <p>* コロナ禍ではあったが、4企業と実施することができた。</p>	<p>・コロナ禍において、推進に向けての実践に取り組んだことについて、評価をしてもよいのではないかと。 →ご指摘の点を踏まえ、評定をAIに設定する。</p>
<p>シラバスの評価と修正</p>	<p>授業担当者が授業終了時にシラバスに直接記録をしていく。</p>	A	<p>・定期試験の出題基準として用いたため、欠点数の減少に繋げることができた。 ・定期試験を実施してみて、SBOs(行動目標)の不足を見つけることができた。 次年度分は既に修正済み。 ・学習範囲が明確化され常にシラバスを所持して授業に参加する姿が窺える。 学生の声「範囲がわかりやすくなった」「勉強するのが楽しい」</p> <p>* 教育課程編成委員会にて中川先生からも学生が使ってるのは良いことと褒められました。もっと使い勝手が良い形式を検討したい。</p>		
<p>アクティブラーニングの推進</p>	<p>アクティブラーニングに移すための環境を整える。写真・動画の保存がまばらで統一感がないので共有フォルダに整理する。</p>	A	<p>・オンライン授業の対応に追われ、フォルダ整理は、概ねといった状況である。しかし教員はオンライン授業のノウハウを研修する絶好の機会になっただけでなく学生のオンラインの授業アンケートによると対面授業よりも集中できる等といった学生の感想を得ることができた。</p> <p>* オンライン授業の形態になっても学習者に伝える方法は引き続き検討します。</p>		

評価項目		具体的方策	自己評価		自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価
	インストラクショナル授業	ひまわり祭までの期間で一人1つのチェックリストを作成してみる。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯実習(2年)の作品評価について細分化評価シートを作成し、2名の教員で評価のバラツキがどのくらいあるのか実施した。同じ目線でない所が判ったので、引き続き研修が必要である。 ・シラバスに①何を教えるか②学びにコミットしているか③何のために教えるかを明記した。 ・高等学校の調査書から、出身校・偏差値・評定平均値・欠席日数など、学び手に関する情報を共有することができた。 ・学習到達度の個人差に応じて、課外補習で個別対応を図った。 <p><u>*チェックリストの作成までは至っていないし、意識をもった学生対応ができた。</u></p>	
	*到達度確認試験	<ul style="list-style-type: none"> ①前年度実施した到達度確認試験をブラッシュアップする。 ②国家試験問題を到達度確認試験に追加していく。 	A		<p>(新規) (2年)関係法規4回 (1年)解剖3回 顎口腔5回 矯正4回</p> <p>(昨年から) (ストック) 関係法規10回 管理学3回 解剖7回 口腔解剖9回 発生学5回 顎口腔7回 有床5回 ブリッジ3回 理工4回 矯正4回 小児2回</p> <p><u>*作成には時間がかかるが、経年的に数を増やしていくことが大事。</u></p>	
	人格教育と専門教育	<ul style="list-style-type: none"> *5Sの行動(整理・整頓)週末に引き出しの中とロッカーの荷物を整理整頓する時間を設ける。(清掃)掃除終了後、学生に報告させ教員が立ち会い点検する。(清潔)白衣・上着の洗濯、手洗い・うがいをHRで注意喚起する。(躰)模範行動の学生をHRで褒める。また振り返りシートで学生の認識を確認する。 ①2年生の実習模型をゴム枠化して教材を準備する。 *②専門書の活用。図書の利用促進。特別活動や授業で専門的なトレンドを扱う。 *③視覚素材の作成とスライド化。 ④教本内の維持装置や補綴装置のステップ模型および完成品を準備する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・5Sについては学年間の指導に強弱があるので次年度は統一できるようにする。 ①単位制移行に伴うゴム枠化は全て完了した。 ②臨床歯科技工やユニット10、症例学習において専門書を活用できた。 ③イラストレーターを用いて写真をイラストに変換することができた(石橋:6枚) ④オンラインの準備に追われ中途半端になっている。 	
③九大病院見学・インターンシップ	九大病院見学	<ul style="list-style-type: none"> ・見学目的と体力育成の重要性を行事前に指導してクラス目標に反映し、貧血転倒を無くす。 ・学生グループのリーダーを中心に、グループワークを進行する。教員はリーダー 学生を通じて学生へ伝達を行い、グループのチームワークを高める。 *教員がコーディネーターとする項目をリストアップする。ファシリテータースキルを向上させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> *コロナ禍のため、学内で症例学習に変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な対応が図られていると認められる。
	インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や掃除だけでなく、ワックスアップなどの作業時間を自ら把握して作業するような姿勢などが、インターンシップ時にできるように日頃から意識付けをして習慣化する。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にも関わらず、受入企業数11件 一人1施設の規模で実施できた。 <u>*受入企業に20人(35名中)の学生が就職した。</u> <u>歯科技工士学生減少の時代であるから、企業とはWin-Winの関係を構築したい。</u> 	
④国試対策	学説・実地試験対策	<ul style="list-style-type: none"> *2年4月から特別活動で石膏彫刻の演習を行う。 早期模擬試験(4月8日)の結果から低学力者を抽出し、低学力層には集団で放課後に履修不足の内容について講義する。クラス単位で週末課題(教本まとめ)を行い、その到達度を確認して、学力の再確認および定着を図る。 週末課題毎週1本の義務を設定する。 前年度の国家試験問題の識別指数や正答率を元に、分野毎の出題予測とオリジナル問題を作成する。 <u>*一回目の国家試験対策模試で欠点層を25%以内(8人)に抑えたい。</u> <u>(前年度の欠点層50.0%)</u> 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上記1. 国家試験対策プログラムの項に記入した通り、1月からの対応になった。 ・コロナ禍で早期模擬試験が実施できなかったが、その後カリキュラムの消化とともに低学力者の抽出と対策を図った。 ・週末課題ではできなかったが、長期休暇の際に教本のまとめを宿題として実施した。 ・新設問題320問の作成ができた。 <u>*目標には掲げていなかったが、模擬試験ごとの出題基準を作成・配布したり、出題基準の分布表を作成して国家試験に臨んだ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ④国試対策について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑤資格取得	ビジネス能力検定3級	<ul style="list-style-type: none"> *専任教員の授業および振り返りの時間(練習問題を解く時間)を設け合格率を高める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・結果 .35名中22名合格(62.9%) 今年度は歯科技工士科教員でオンライン授業を行ってきたが、授業と本試験までに期間が空きすぎて学生のモチベーションを維持させるのが難しかった。次年度は授業と試験の期間を早めて過去問を解くなどして合格率アップにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な対応が図られていると認められる。

評価項目		具体的方策	自己評価 (成果と課題)		学校関係者評価	
⑥教職員研修・学会	実習中の安全意識啓発	*1年生は、歯科技工の基本で授業として安全管理の認識をさせる。 2年生は、LHRで歯科技工実習の道具・機器の使い方について安全管理の認識をさせる。	B	B	(1年)石音くずが目に入り、傷がついた事例が発生した。 想定外の作業中の出来事であったため、次年度以降は事例として共有する。 (2年)ナイフで手を切る程度の怪我が発生した。学生の不注意が原因であった。	・適切な対応が図られていると認められる。
	客観試験問題 (四肢択一問題)	*視覚素材のオリジナル問題を作問しフリーラインシステムに追加する。(一人10問)	B		オリジナル問題を320問作成した。(うち視覚素材問題は85問)。 フリーラインシステムの入力是国家試験の出題基準が変更したため、過去問題の再分類と入力作業が膨大になっている。次年度は定期的に入力する時間を設定して着手する。複数で対応する仕組みに変更しないといけない。	
	全技協・福専各の各種研修会および学会	澤田先生が全技協研修会を受講して実技評価試験委員の資格を得る。 専門的な研修は、校内外部研修会と臨床研修で行う。	B		全技協の実習施設指導者等講習会に澤田が出席する予定だったが、開催が中止されたので実施していない。	
	校内外部研修会の誘致と参加	*河原セミナーを9回、技工コースを2回、をする。前年度同様、校内外部研修会で学校PRを行う。研修毎にリーフを配布し、業界からの学生募集につなげる。 学生や教員の聴講をお願いし、専門的な知識の修得につとめる。	B		河原先生とも打ち合わせて、歯科医師コースと技工コースを行うように計画していたが、コロナ禍につき先方が研修を中止したので実施していない。	
	職業実践専門課程臨床研修	澤田が、オーケイラボセンターで口腔顎顔面育成に関する臨床研修を行う。 石橋が、日本スポーツ歯科医学会に入会する。	B		コロナ禍のため臨床研修は自粛した。日本スポーツ歯科医学会に入会し、オンライン研修を受講した。	
⑦科の行事	DTレクリエーション	クラス内の交流、学年を超えた交流、学内では得られない経験、年度当初の目標(クラス目標、個人目標)確認などを目的に実施。 また、目標は定期的に(月1)見直し、修正作業をする事に意味を持たせる。	B	B	コロナ禍のため、外出レクリエーションは自粛したが、代わりに学内で2年と1年の交流会を7月6日に開催した。	・適切な対応が図られていると認められる。
	研修旅行(関東予定)	関東の有名実カラボ、日本歯科技工士会館、日本歯科東京短期大学、横浜歯科医療専門学校など、九州にはない先進的な見学先で専門知識を学ぶ。 学生自身の将来像を意識付けし、就業意識の養成を行う。また、それまで培った基本的な生活習慣を研修旅行を通じて確認する。	B		9月9日～11日の期間に関東方面で計画をしていたが、コロナ禍のため自粛した。	
	体験入学・学校見学会の充実	上記 入学定員充足率100%以上(35名)に記載。	—		—	
	釜山カトリック大学との新展開	今年度は、訪問年度であるが新型コロナウイルス感染症のため様子見。	B		今年度は、訪問年度で松山が現地の学生に講演する等の企画はあったが、コロナ禍のため自粛した。	
⑧就職	個性に応じた就職指導	学生にとって離職しやすい就職先へは就職斡旋を行わず、5年先に結果が出せるような企業へ学生を促す。(県内外は問わない) 卒業生の離職者には、辞めた理由をアンケートし、再就職を促す。 同窓会のホームカミングデーでも悩み相談を行い、継続的に歯科技工士を続ける人材を育成する。	A	A	上記 就職内定率に記載。	⑧就職について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他	ライフワークバランスの推進	カリキュラムマップをベースに学習到達度を高め、低学力層を減らして業務負担の軽減を図る。積極的に休暇を取得する。	A	A	〈振替休日の残り日数 令和3年3月25日現在〉 山田(1.5日)矢野(0.5日)澤田(0日)石橋(1.0日)松山(0日) 〈有休休暇の取得率 令和3年3月25日現在〉 山田(6.643日)矢野(2.286日)澤田(7.5日)石橋(3.5日)松山(5.5日) コロナ禍でオンライン授業、分散登校など大忙しでしたが、全員で協力して国家試験や就職など、よく働き、よく休むことが実践できたと思います。	⑨その他について、自己評価の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。

評価項目	具体的方策	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価	
①目標	・遅刻、欠席者の減少。	B	<p>【遅刻・欠席年間月平均】1年生26.2%(30.5%)、2年生10%(67.6%)、3年生26.4%(35.8%)HR遅刻:1年生5.1%(3.9%)、2年生3.0%(7.4%)、3年生7.3%(4.6%) 3年生は1年次より遅刻、欠席が多く、昨年度より減ったものの基本的な生活習慣が身につけていない学生は卒業まで遅刻、欠席を繰り返しており、その都度面談を行ったが改善されることはなかった。 2年生は1名1週間の入院による欠席があったにも関わらず、皆勤40名精勤8名とほとんどの学生が遅刻、欠席なく登校し、目標達成することができた。HRで出席率は就活の時に大事だということを何度も伝え意識付けをすると共に遅刻の多い学生には生活習慣の見直しをするよう面談した。 1年生は教室に精勤・皆勤表を掲示。面談時に個人の出席状況を伝え、ポートフォリオの年間記録シートへ記入させると共に毎月振り返りを行った。また、リモート授業時に遅刻が多い学生に対しては登校するようにした。結果、皆勤31名精勤7名だった。退学希望者の長期欠席により欠席率が高くなった。 ※()内の数字は昨年度の平均</p>	・適切な対応が図られていると認められる。	
	・国家試験100%合格	C	<p>3月に1・2年生が同一問題で校内模擬試験を実施。(昨年度は休校により未実施。) 1年生は校内模擬試験を2回実施。HR、補習、長期休業課題等で国家試験問題を配布・解説し、早期より国家試験の形態に慣れるように取り組んだり、成績不振者への個別指導を行った。2年生は校内模擬試験を1回実施した。 3年生の取り組みは例年通り専任教員の補講を行い、1月からは水・土曜日以外は18時まで全員で補講や自己学習を行い、その後19時まで成績不振の学生対象学習として強化を図ったが、新型コロナウイルス感染症拡大にともない実習時間数不足を補う必要があり、国家試験対策講義開始が例年より遅くなった。また、国家試験対策講義期間中に感染予防のために成績に問題がない学生は、希望によりリモート授業とした。そのため例年成績上位者が下位の者と一緒对国家試験に向けて学習することが難しくなった。 その他の対策 ・4月～6月の臨床実習中止期間中は1.2年次の基礎問題集を対策資料として配布し自己学習をさせ、適宜模擬試験を実施。同時に個人面談を実施。 ・成績不振者には別課題配布と共に夏期休業中も個別に課題を配布し、国家試験対策への取り組み方法を確認し、アドバイスした。 ・冬期休業中の学習用課題配布と成績不振者の学習状況の把握。 ・5回の業者模試、15回の校内模擬試験の実施。 ・1月、2月は時差出勤による補講後の成績不振者対応、自己学習のサポートの実施。 第30回歯科衛生士国家試験結果合格者47名/54名受験 自己採点においてぎりぎりの点数で合格発表を迎える学生が多かったため、校内模擬試験でも早期に合格点に達するよう意識の向上を図ると共に成績不振者へ時間をかけて対応していく必要がある。</p>		
	・全員就職	B	<p>国家試験合格ラインの早期到達を対策講義や補講により目指し、早期より活動を開始できるようにする。また、見学後の聞き取りを十分にを行い学生の性格等をふまえた就職活動の支援を行う。</p>	<p>【求人件数・求人者数】 3/16現在:542件/942名(R2.3/25現在:576件/1106名) 内定者 50/54名 他2名進学 ・福岡医療短期大学歯科衛生士科専攻科へ進学 1名(2名) ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻へ進学 1名 ・YAMAKIN株式会社(メーカー) 1名 ※()内の数字は昨年度の実績 成績不振者が多く就職活動を始めると時間がかかった。モチベーションを上げるために合格点にわずかに達していない者には個別指導を行い、早期より活動を開始させ勉強意欲を高めた。</p>	
	・退学者の減少	B	<p>毎日の挨拶運動や、日常の関わりの中での変化を見逃さないこと、また、対応の難しい問題を抱えている学生がいることから情報は教員全員で共有し対応にあたる。保護者との連携も密に取り長期欠席や退学を防ぐ。定期的な面談(1年生は5～6月頃と各期末試験の成績面談、2.3年生は各期末試験の成績面談)以外にも、学習や私的な問題を抱える学生に適宜面談や補講を実施し早期の問題解決を図り退学の防止に努める。また、1年生は「未来手帳」を活用し一人一人の目標達成をサポートする。</p>	<p>1年生3名退学。1名は分散登校が始まった6月頃から精神的に不安定な状況が見られ、保護者と連絡を取りながら様子を見ていたが、夏期休業明けに退学。1名は夏期休業明けに保護者より連絡があり、体調不良により退学。1名は前期末試験から成績不振で保護者にはその都度来校していただき現状を伝えたり、放課後に補講を行ったりとサポートしたが原級留置となり退学を希望した。 1年生はポートフォリオを活用したり、掃除チェックを全教員で分担し学年を超えた学生との関わりを持てるようにした。また、全学年、精神面でサポートが必要な学生には普段から学生が教員に相談できるような信頼関係を築いたり、学生の変化に気づき適宜面談を行った。今後も教員全員で学生情報を共有し、学生の変化に気づくようにすると共に、学力の低い学生への取り組みも見直し成績不振による退学者0名にした。</p>	
	・募集対策内容の充実	A	<p>SAと教員が一体となって本校の魅力的部分をアピールし他校との差別化を図る。実施内容も参加者が興味を持ち「学びたい・資格を取りたい」と思うよう伝え方、関わり方を意識する。また、教員は保護者へ積極的に対応し安心できる教育体制であることをアピールすること、それにより本人保護者双方の意志からの出願に繋げる。体験入学からの出願者率60%は例年厳しいが、その働きかけから指定校、推薦A、推薦Bでの定員80%、参加者数120名以上を目指すことを常に目標とする。出前授業等でも体験入学参加や出願に繋がるように興味を引く取り組みを行う。</p>	<p>今年度もSA、教員一丸となって体験入学に臨み、154名(131名)と昨年より多くの参加があった。体験入学では昨年度作成した科の特徴をとらえた紹介動画を見直しで使用し、SA(スチューデントアシスタント)が担当する体験者を予め決めておくことでコミュニケーションを図りやすした。教員間ではリポーターの状況を把握し、内容が重ならないように工夫した。また、希望者にはZOOMで体験入学を行い、実習はできなかったものの学内を案内することができた。体験入学からの出願者率は55%(45%)、指定校、推薦Aでの定員確保は62%(52%)と昨年より良い結果となった。今年度は一般B入試までで定員1割増の入学者を確保ができたが、これを継続できるよう次年度も取り組んでいきたい。 ※()内の数字は昨年度の数値</p>	

評価項目	具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価	
②カリキュラム	・シラバスの充実とカリキュラムマップの充実	主要三科シラバスのGIO(一般目標)、SBOs(行動目標)の振り返りを行い、改善を図り、カリキュラムマップと整合性の取れたものにする。	A	昨年同様、カリキュラムマップにより、現在地点の確認と到達点の確認、授業目的、学習成果の確認できるようにした。専任教員担当科目へGIO(一般目標)、SBOs(行動目標)を記載することで、各授業毎の学習成果の向上を図った。また、科の研修で作成した安全管理ガイドラインを学生へ配布し、安全に関する知識と安全に配慮した実習に取り組んだ。	・適切な対応が図られていると認められる。
	・アクティブラーニングを活用した授業の導入	学生の能動的な学びを促し、歯科衛生士としてまた、社会人としての汎用的能力の育成を図る。	B	授業や学内実習、臨地実習事前授業で実施。雑談や学びにばらつきがでないように適宜注意を促し、学生一人一人が主体的かつ協動的に学ぶように心がけた。受け身の学習ではないため、個々が何をすべきか把握できているため、実習へ取り組み姿勢や問題発生時の臨機応変な対応も十分で来たと感じた。今後も知識伝達の講義型授業と上手くバランスを取りながら学生主体の学習活動の支援を行う。	
	・学習目標、到達目標の明確化した授業の設計(インストラクショナルデザイン)の再考	シラバスに記載したGIO(一般目標)、SBOs(行動目標)を十分に活用し授業毎に学生に認識させ、1年生は基礎、2年生は基礎の応用、3年生は応用展開と成長できる内容であるか、臨地の場を意識した内容であるか等考察しながらこれまで以上に学習効果のある授業を展開する。	B	授業展開に必要な授業案を毎時間ごとに全教員作成している。そこに掲げているGIOに到達するためのSBOsを授業資料に明記し、授業開始時に確認し学習効果の向上を図った。授業終了時には目標到達の評価を行い理解度の確認をし、学習効果の把握を行っている。	
	・授業目標に到達できない学生へのフォロー	空き時間を利用し補講を実施できるように計画し講義、実習の理解や技術習得不足による成績不振やそれに伴う目的意識の低下を防ぐ。	B	各学年において、学生からの申し出や授業担当や担任、副担任が声掛けし、実技試験前後や必要時に補習を実施した。特に、OSCE事前事後の実技指導、定期試験、再試験前後は成績不振者の対応をおこなった。また、実技面で不安な学生には放課後に少人数で練習を行った。	
	・専任教員授業アンケートの実施	学生の学習効果の向上と授業改善、それによる学生の学校満足度の向上のための資料としての活用を検討する。	B	全ての科目でのアンケートを実施。臨地・臨床実習終了後も実施した。学習効果の向上と授業改善のための指標として活用。	
	・人格教育と専門教育の充実	女性として、また医療専門職として幅広い見識や目的意識向上に繋がる、研修等を導入する。	A	1年生 ・R3.3.9(日)音波ブラシセミナー(GC) ・美文字の課題配布 2年生 ・R2.10.16(金)減菌セミナー(モリタ) ・R2.10.19(月)バキュームセミナー(モリタ) ・R2.11.17(火)ソニックケア・歯磨剤・ボスカFセミナー(モリタ) ・R2.11.20(金)院内感染セミナー(GC) ・R2.12.1(火)口腔機能検査セミナー(GC) ・R3.2.8(月)博多高等学校看護専攻科合同実習 ・R3.3.15(月)すえながひとみ先生セミナー ・R3.3.17(水)義歯の清掃、酸蝕についてセミナー(グラクソスミスクライン株式会社) 3年生 ・R2.9.4(金)減菌セミナー(モリタ) ・R2.10.27(水)災害支援セミナー(DH)、院内感染セミナー(GC) ・R2.10.29(木)審美歯科セミナー(審美学会) ・R2.11.12(木)う蝕予防セミナー(LION) ・R2.12.7(月)歯周病予防セミナー(LION) ・R2.12.8(火)口腔機能検査セミナー(モリタ) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年生は授業時間数に余裕がなく、例年よりセミナー数が少なくなった。2、3年生は臨地臨床実習が行えなかった時間をセミナーで補ったため例年より多くのセミナーを実施することができた。	
・「教育課程編成委員会」との連携	委員の方々からのご意見と教育内容を検討し、現状をふまえた専門性の高い教育の実施を目指す。専門的口腔のケアについては、委員の方々から現場の状況や歯科衛生士の役割など臨床現場の意見をいただき内容の充実を図る。また、昨年度頂いた意見を参考に卒業生と一緒にワークする取り組みの導入を試みる。	B	令和3年6月29日(月)日本口腔ケア学会認定資格試験5級試験実施 54名受験、50名合格。(52/54名 2名不合格) 緊急事態宣言による休校により実施時期を遅らせ実施した。問題集を活用した自己学習の取り組みを強化したが、4名不合格の結果となった。 ※()内の数字は昨年度の数値 次年度のカリキュラム編成において、新規で取り入れる1年次の接遇OSCEについてや3年次前期の臨地臨床実習(福大病院、こども病院、矯正歯科小児歯科)、3年次後期の災害支援の講義等について意見を頂くことができた。また、企業セミナーや九州大学の遠隔講義の状況について教えて頂き、遠隔授業についてのアドバイス頂くことができた。		
③臨床実習・病院見学・インターンシップ	・臨床実習における知識・技術の向上	OSCEの合格で自信を付けて臨ませる。2年生は1回目の評価を基に、2回目の実習評価が向上するようフィードバックを実施する。3年生は歯科衛生業務において歯科衛生過程を活用する力をつける。1年生は臨床実習の意味等の事前説明や臨床実習対策実習の時間を増やし、事故防止や実習の充実を図る。	B	【実習評価平均】1年生:43点(39.9)・2年生:79.1点(83.3)・3年生:88.2点(86.0) 【器物破損】 3年生:2件…器具清掃中に破損、高いところに置かれていたルーペに手が振れ落下し破損 【アクシデント】 2年生:1件…X線フィルムを感光 【インシデント】 2年生:2件…アルコールをエプロンにこぼした、器械の準備を誤った、3年生:1件…器具の落下 ※()内の数字は昨年度の点数 新型コロナウイルス感染症拡大の中ではあったが、事前に感染対策のセミナー等を行い実習に臨むことができた。例年と異なり3年生の実習を2施設、2年生の実習を1施設とし3年生の実習時間確保を行った。1年生は事前講義として接遇の特別講義を設けたが、効果的だったと思う。また、過去の実習評価や様々な事例や先輩の感想等を具体的に紹介し、よりリアルにイメージしやすい事前講義を行った。	③臨床実習・病院実習・インターンシップについて、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	・事前実技試験(OSCE)の充実	臨床実習後の学生評価をもとに内容の検討を行い、臨床実習で実践できる内容に近づける。学生は合格することで自信を持ち落ち着いて実習に臨み、知識や技術の向上に繋げる。また、学生全体の知識や技術の差を小さくし評価のばらつきや事故防止を目指す。	B	例年通り臨床実習で求められる技術や、臨床現場の処置を想定した問題へ対応できる学生が自信を持って実習に臨むことができる内容かを検討し実施した。5つのステーションすべて不合格の者はいなかったが、25名が不合格であった。翌日の各ステーションの試験官によるフィードバック後、補習を行い再試験で全員合格することができた。	

評価項目	具体的方策	自己評価	自己評価 (成果と課題)	学校関係者評価		
④国試対策	・国家試験対策講義、補講、補習の取り組み	非常勤講師の対策講義と連携した専任教員による補講の強化。冬期休業を利用した効果的な自己学習の取り組みの働きかけを行う。また、国家試験再受験者の対応については、対策講義や模擬試験等の情報を提供しフォロー体制を完全に確保する。	B	専任教員の補講も非常勤講師の内容、専任間の内容を確認し網羅できるように取り組んだ。模擬試験後、補講終了後も決められた時間は全員で自己学習を行い、その後を模擬試験の点数により自己学習の時間として取り組ませた。全員対象ではないが朝課外として毎朝10問テストを実施。また、その日行われた対策授業の振り返りとして科目別に5問ずつ問題を渡し各自で復習できるようにした。放課後にも苦手な部分を復習できるように問題を準備し取り組ませた。保護者への連絡も適宜行い、家庭での学習状況を把握しフォローした。昨年の不合格者の希望により対策講義を聴講。模擬試験も一緒に受験したことで緊張感を持つことができた。	・適切な対応が図られていると認められる。	
	・個人データの分析による科目別対策の実施	現在活用している業者ソフトによるマークシート採点で個人データの分析を行い苦手科目の強化を図る。	B	B		定期的に業者ソフトによる個人データの分析を行い、苦手科目を把握し強化し必要に応じて課題を与えた。
	・国家試験合格に向けたシステム作りの構築	1年次から国家試験を意識したシステムを構築する。1年次は動機付け的な試験の実施と教員による補講、2年次は基礎科目の反復学習を含めた模擬試験と教員による補講、3年次は業者による全国模擬試験、十数回実施する校内模擬試験、非常勤講師による対策講義、教員による補講を行う。またこれまでのデータから、国家試験対策時に不安な学生は1年次の成績不振者でもあることから、早めの対策を検討する。	B	例年通り、1年次は専任の授業の内容に沿って出題し国家試験を意識させると共に、夏期や冬期休業中の課題として誤った問題のやり直しの提出、2年次は模擬試験の実施後に誤った問題のやり直しを行っている。各学年とも基礎科目の知識が薄くならないよう取り組んでいる。3年次では、業者による全国模擬試験4回、校内模擬試験を15回実施した。非常勤講師による対策講義、教員による補習の実施。毎回、模擬試験の目標点を掲げ達しない場合は補習終了後も自己学習の時間とした。		
⑤資格取得	・秘書検定3級全員合格、2級合格率UP	3級合格:1年次100%、2級合格:80%台を目指す。	B	B	新型コロナウイルス感染症拡大予防に対する休校等により未実施	⑤資格取得について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑥教員研修・学会等	・該当研修への積極的参加	職業実践専門課程の認定校でもあることを意識し、指導者としてのスキルアップを図る。専任教員研修や業界団体の研修、臨床研修へ積極的に参加し、最新の情報や技術の習得に心がける。	A	B	・11/27(金)人権セミナー:植木 ・12/7(土)、8日)第11回日本歯科衛生士教育学会総会・学術大会(Web) :植木、藤木、牧原、加藤 その他予定していた研修会は中止となったが、5月からオンライン講義を始めるため、ZOOMの使用法や授業展開法を学び、教員間で共有して早期実施につなげた。	・コロナ禍において研修の機会が減少したことは事実であるが、修得・向上のための研鑽は続けていることから、評定の変更は不要ではないか。 →ご指摘の点を踏まえ、評定をAに据え置く。
	・ファシリテーションスキルの習得	アクティブラーニングを実施する上で不可欠なファシリテーションスキルの習得に積極的に取り組み効果的な授業展開をする。	B	まだまだであるため、継続課題。		
⑦科の行事	・レクリエーションによる交流	クラス内交流、学年を超えた交流を図りクラス・科の結束を図り、協調性や連帯感を育む。	B	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止。代わりに7月15日(水)の昼休みに交流会を実施。401、403教室と検査室の3部屋を使用し、分散し行った。1年生3~2名と2年生3~4名を1グループとし、各自持参した昼食と学生会費より準備したお菓子を食べながら、交流した。例年通りのレクリエーションはできなかったが、1、2年生の親睦を深めることができた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	・1・2年生合同実習による交流	1年生はこれからの学びの目標として、2年生はこれまでの1年間の知識・技術の確認と先輩としての自覚を持てるようにする。実施内容も検討し、各学年の教育的効果にも考慮する。	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大の為、例年より半年遅れで感染症対策を十分に行いながら第1回目10月26日(月)終日、第2回目11月30日(月)半日実施。7月の交流会から時間は経っていたが、2年生が上手にコミュニケーションをとり1年生も安心した雰囲気を実習に臨んでいた。1年生の感想では2年生への尊敬とこれからの学習への期待があった。患者としての意見も率直に記入してくれたものもあり担当学生や指導にあたる教員も再考する良い機会となっている。コロナ禍で相互実習を実施することに対する不安から、中止も考えたが両学年にとって学びの多い実習であるため実施することとした。	
	・福岡県歯科衛生士連絡教育協議会	協議会では加盟校の教育や募集対策の参考となるようそれぞれの取り組みや歯科衛生士の動向について等の積極的な情報収集に努める。また、専任教員研修では教育に活用できる内容の研修を計画する。加盟校の教員との良好な関係を築き、情報交換やネットワーク作りにも努める。	A	A	8月7日(金)福岡医療短期大学が当番校として実施。新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、協議会のみ実施された。理事会報告、レセコン授業の導入について、新型コロナウイルス感染症拡大を受けての対応、学生募集広報活動に関する現状と課題について等情報交換を行った。	
	・全国歯科衛生士教育協議会九州地区会	今年度は担当校として、スムーズに会の運営が行われるよう福岡市内の学校と協力のもと進めていく。	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大の為、全国歯科衛生士教育協議会担当理事と協議の結果、書面開催とした。例年通り会員校より協議題案、聴取事項を提出いただき、それに対する回答と各学校の基礎調査をまとめファイリングして郵送した。また、国家試験時の会場バス乗り入れ対応、引率者控室準備等全て滞りなく行った。4月に次年度担当校への引継も完了。	
	・臨床実習事前、事後懇談会	実習指導者に臨床実習の位置づけを理解していただき、学生が歯科衛生士となるための学びを得られる実習実施を目指すこと。また、実習指導者と学校・教員が臨床実習での問題点や改善点等の意見交換や情報交換を活発に行い、実習目的の共通理解を図るとともに良好な関係を保つことを目的として実施する	A	A	8/29(土)本校多目的ホールにて事前懇談会実施。実習施設38施設の内25施設37名の指導者の方々に出席頂いた。卒業生が勤務している実習施設が増え、指導内容の理解や協力体制の強化を感じることができた。新型コロナウイルス感染症が心配されるところでしたが多くの施設に参加して頂き、また3年生の一部も面談することができ有意義な懇談会となった。事後懇談会は新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止とし、報告書等を実習施設に郵送した。	

評価項目	具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
・登院式 ・研修旅行	実施後の振り返りを行い、改善点について内容を検討する。常に、1年生が2年次の目標となるように、また2年生は臨床実習に臨むという緊張感のある式典を実施する。	A	歯科診療所臨床実習の時期を変更したため、例年より1か月ほど遅い10月12日(月)の午後に実施。感染症対策として来賓、保護者、1年生の参加をなしとして行ったが、福岡県歯科衛生士会の会長からは式辞を頂き、副校長に代読していただくことで登院生の気を引き締めることができた。今年度もLED内蔵で色とりどりに光るキャンドルをメインキャンドルに用い、バイオリンの生演奏で式典の雰囲気づくりを行った。マスク着用で例年と異なる形式ではあったが開催することができた。	
	臨床実習の間でもあるため学生の目的意識の向上や視野の改革になるもの、また、2年次での実施に意義を持たせる内容を業者の協力を得ながら早期より企画する。	B	新型コロナウイルス感染症拡大により2年次に予定していた関東方面への研修旅行を3年次の9月に延期。	
⑧就職 ・第一希望先への就職	挨拶、返事、笑顔など新人として求められる人材の育成に、朝の挨拶や教員との対応時などの日々の学校生活の中から身につけられるように取り組み、面接時に自信を持った態度で臨めるように指導する。また、1年次から学生の個性を多面的に評価し就職活動等で不利になりそうな要素がある場合は、指導改善を行っていく。	A	A 就職セミナーを9月3日(木)ハーモニックの林先生、11月30日(金)福岡県若者ごとサポートセンターから講師を招いて実施。求人票の内容についてや見学時、面接時の注意点など就職活動に必要なポイントを教えて頂いた。 また、歯科医院から院長先生や歯科衛生士さんがお越しくださり、歯科衛生士の魅力や医院の取り組みを直接話して頂くことで、就職につなげることができた。	⑧就職について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他 ・ワーク・ライフ・バランスの推進	日常業務は優先順位を持って取り組むこと、ムダや時間をかけすぎない取り組みの働きかけを行う。担任は副担任と連携をとり円滑なクラス運営を指し、有休、振休の適宜取得を心がける。また、教務主任は業務の進捗状況の把握に努め、適切なタイムマネジメントを行い時間外労働の軽減を図る。	B	B 業務終了時間の可視化を継続。補助教員のおかげで業務負担が軽減されたが、学年や時期による業務の増はまだみられる。 休日出勤の際には全員振休取得を心掛けた。時差出勤も国家試験対策期間だけでなく必要に応じて導入し、時間外労働減に取り組んだ。今後も教員間の連携を図り業務の遂行に務める必要がある。	⑨その他について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。

全体共有 > ★職業実践専門課程 > 学校関係者評価委員会 > R2学校評価 > R2年学校関係者評価 > DH